令和6年度　　学校自己評価

大阪教育大学附属高等学校池田校舎

区分	項目	現状	課題	達成目標・方略	進捗状況	到達度	今後の課題
校務分掌（部）	教務部	本校の教育目標に沿った教科の学習活動の実践と適切な学習評価が行われるよう，教務内規に基づいて校務を分担している。	・将来を見据えた主体的学習姿勢を養う科目選択機会の活用 ・生徒の学力の多面的評価についての教務面からの検討 ・教務と進路の連携を意識した役割分担の検討 ・生徒の立場に立った進路指導の推進 ・教務関係事務の効率的な進め方や新たなルールの検討、整備	・各学年及び各教科と適切に連携し，生徒が希望する科目をできるだけ良好な学習環境で履修できるように講座編成を行う。 ・次期指導要領の趣旨に従い，教育課程を編成するとともに，適切な評価（評定）のあり方について検討を行う。 ・進路情報の提供，生徒の進路希望の把握に努める。 ・校務支援ソフトの円滑な運用を目指す。	・科目選択の傾向はさらに変化し，講座編成，学級編成が困難となってきた。 ・新教育課程の編成はできたが，この教育課程による入試制度に不確定な要素が多く，見直しが必要となる可能性がある。 ・大学入試の在り方が毎年のように変わり，生徒も進路指導担当も対応に苦労する状況が続いている。	4	・出席簿を廃止したが、出席状況の把握方法に関して，校務支援ソフトとの連携を考える必要がある。 ・校務支援ソフトの運用について現時点では教務の業務増大になっている。 ・教育課程の観点別評価については，校内の共通理解を深める必要がある。 ・大学の入試制度の変化に対応した進路指導を心掛ける必要がある。
	生活指導部	○各学年担任団から1名ずつ、養護教諭、部長の5名体制 ○問題行動の抑止および指導、自転車安全指導、朝の校門登校指導、 遺失拾得物管理、清掃指導、生徒健康診断、教育相談、生徒支援を担当 ○生徒に向けての研修会を実施（1年生2回/年、2，3年生1回/年）	○学校全体としての生徒情報共有に基づいた支援体制の構築 ○生徒健康診断の円滑かつ安全な実施 ○安心で安全な学習環境の整備 ○メディアリテラシー教育の充実 ○登下校時のマナー向上	○生徒支援におけるフローチャートを確立し、運営する。 ○附属中学校と連携し、生徒負担の少ない健康診断を計画する。 ○清掃時における校内安全チェックの意識付け ○生徒の実情にあった研修会の企画と実施 ○自転車安全指導の充実および入校証着用率の向上	○昨年度と比較して、委員会や学年が情報交換等と用いて密に連携したことで円滑な生徒支援が実現でき、実感できる成果があった。。 ○中学校と本校の養護教諭が連携し、健診の実施日および使用施設を統一した。また、健診業務を外部業者に一部委託することで業務負担を軽減し、他の学校行事に影響しないような円滑な実施を計画中である。 ○校内安全チェックの結果が生徒の学校生活に反映できていることを周知する取り組みが不足していた。 ○各学年の生徒に身に付けてほしい力を踏まえた研修が実施できた。特に第2学年に関しては、今後さらに発展する情報化社会の中で正しい情報を選択できる力を養うプログラムとして慶応大学の学生が開発したメディアリテラシー研修を体験することができた。 ○自転車も含め登下校時におけるマナーは、外部からの報告件数の減少から改善傾向にあると判断できる。ただ入校証の着用率は様々な施策を講じたが大幅な変化はなかった。	4	○校内の安全確保に対する生徒の意識を向上させる。 ○入校証の着用率を向上させる。 ○登校遅刻および業間遅刻を減少させる。 ○生徒支援のさらなる充実と校内連携体制をより強固にする。
	教科外活動部	6名の部員で構成され，主に以下の業務を担当 ・生徒会指導（生徒会執行部や委員会の指導，生徒会行事の運営，部・同好会活動全体に関係する業務の指導・調整） ・LHR運営指+C6:F6+D5導・調整（リーダー（執行部・代議員）研修，活動場所の調整，LHR使用物品の管理）	・生徒主体の教科外活動の意義を教員と生徒とで共有できていない部分があり，教育的効果を十分にあげることができていないところがあること。 ・少ない部員数で最大限の効果をあげるための生徒会指導の方法を確立すること。 ・学校行事での生徒の指導を教員全体で効果的に行えるようにすること。 ・様々な業務・作業をオンライン化していくことによる情報過多。	・教科外活動の意義を教員と生徒で共有する機会を設けるとともに，生徒と対話する機会を増やす。 ・1つ1つの生徒会行事や企画の意義・目的を踏まえて活動内容を整理し，よりよい方策を検討させる機会をつくる。 ・Google ClassroomやFormsなどのオンラインツールを活用し，生徒の活動に適宜フィードバックを行うことで，計画的かつ継続的な委員会活動を行うことができるようにする。 ・学校行事での教員全体の役割分担をもとに，より積極的に生徒と関わり学校全体として指導できる教員体制を構築する。 ・部・同好会の付き添いに生徒係当番制・部活動指導員・部活動サポーターを活用し教員の業務負担を減らす。	・執行部，委員会3役で集まり，意見交換や情報共有する場を定期的に設定した。その場で個々の生徒会行事や企画の意義・目的を再確認し，より効率的な執行部・委員会活動の在り方を意識させるとともに，教員との意思疎通を図った。 ・Google work spaceを活用し，1年間の活動記録のまとめとふり返り，次年度の検討課題等の整理，過去の情報を活用した行事の運営を促した。 ・附高祭で教員全体の役割分担を作成し，より積極的に生徒と関わり，学校全体として指導を行った。 ・部・同好会の付き添いに生徒係当番制・部活動指導員・部活動サポーターを導入し、平日・休日の教員の負担が少し軽減された。	4	・教員及び生徒と教科外活動の教育的意義をより明確に共有・意識していく必要がある。 ・教員の役割分担を再検討し，効果的に生徒の資質・能力を育む方法を模索する必要がある。 ・部活動指導員・部活動サポーターのより効果的な活用方法を模索する必要がある。
	教育研究部	・池田地区附属学校共同研究に取り組み、研究発表会を実施している。 ・教員研修や小中高合同研修会の実施、校内授業見学推進期間の設置、各種研究会・研修会・教育論文募集の案内を行っている。 ・3学年の「グローバル探究／総合的な探究の時間」について、授業運営のコーディネート・教科連携の促進・生徒の学外発表の支援をしている。 ・本校Webサイトや『研究紀要』を通じて、教育研究の内容や成果を外部に情報発信している。 ・WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業に関する教育プログラムを企画・実施している。	・池田地区小中高全体で共同した教育研究活動。 ・近年の動向を踏まえた教育研究。 ・「グローバル探究／総合的な探究の時間」の継続的・発展的な指導体制の構築。	・小中高12年間の教育を通じて、グローバル社会を協働的に創造できる人材を育成することをめざす指標「コモンルーブリック」を、具体的にローカライズさせた教育実践を行う。 ・近年の動向を踏まえた教育研究のために、校内研修の開催、校内授業見学推進期間の設置、各種研究会・研修会の案内等を行う。 ・「グローバル探究／総合的な探究の時間」のカリキュラムについて、教科連携を促進するとともに、生徒の学びの場を学外へも広げる支援を行う。 ・Webサイトおよび研究紀要を通じて、本校の教育研究を継続的に発信する。 ・WWL事業に関して各連携機関・連携校との調整を適切に行い、持続可能な教育プログラムを企画・実施する。	・グローバル社会を協働的に創造する人材の育成をめざして小中高共同研究を行い、コモンルーブリックをローカライズさせた各教育実践を、11月研究発表会で公開・発表した。 ・「グローバル探究／総合的な探究の時間」と教科連携をテーマとした講演会を含む4回の校内研修を開催し、教育実践共有の場として2回の校内授業見学推進期間を設けた。全附連など各種研究会・研修会の情報発信・参加調整を行い、近附連は当番校として運営補助を担当した。 ・「グローバル探究／総合的な探究の時間」のカリキュラムについて教科連携を図り、課題図書の選定や探究手法に関わる授業実践等を行った。また、高大連携プログラムや学外発表について周知し、生徒の学びを広げる支援を行った。 ・Webサイトで本校の教育研究活動について継続的に情報発信を行った。また、研究紀要の編集・発行・リポジトリ登録・関連機関への周知をした。 ・WWL事業に関する教育プログラムとして、生徒たちの1年間の探究活動の成果を発表する場としての研究発表会を12月に開催した。	5	・「グローバル社会を協働的に創造する資質・能力の育成」に関する教育研究の総まとめに向けて、池田地区全体で教育研究や教育実践のあり方を検討していく。 ・各教員が日常的に教科教育の研究に取り組み、その成果を外部発信できるよう、引き続き様々な機会を提供できるように努める。 ・これまでの国際教育やWWL事業の実績を踏まえ、複数の教科・科目、学年間での連携を図りながら、「総合的な探究の時間」を軸としたカリキュラムを発展させ、より充実した教育活動の実現をめざす。
	総務部	・SPS認証校となり3年が経ち、今年度は再認証を申請する予定である。 ・SPS認証校として学校安全をさらに推進しつつ、その成果を外部に発信することが求められている。 ・「学校安全マニュアル」を毎年更新を行っているが、海外研修に関する危機管理の追記が必要である。 ・下足室と男子更衣室の階段の滑り止めが剥がれていて、滑りやすく危険な状態である。学校安全の観点から早急に修繕する必要がある。 ・「さすまた」設置に関しては、職員室・事務室・研究室・各階の廊下などの本館は設置済みであるが、国際センターやメディアセンターなどは、まだ未設置である。 ・各教室や特別教室に常時備え付けてある「非常用医療品袋」の医療品が期限になりそうである。 ・これまで生徒用の上履きがスリッパタイプであり、緊急時に避難する際、迅速に行動できない危険性や指先が出ていて落下物や瓦礫等から足の指を守る安全性に問題がある。 ・毎年、教室の机とイスを新品に交換しているが、交換したほうがよい状態の机とイスがまだある。	・SPS認証校として、学校安全に関する情報や取り組みを外部へ発信 ・今までの「学校安全マニュアル」には、海外研修に関する危機管理に関する内容が不記載 ・学校安全への高校生の参画をどのように実現するかの検討 ・「安全点検」の内容の再確認と活用方法の検討 ・国際センターやメディアセンターへの「さすまた」の設置 ・ヒヤリハットシステムの成果の活用方法 ・「非常用医療品袋」の中の期限切れの近い医療品の更新 ・生徒用のスリッパの変更 ・教室の机とイスの更新（入れ替え） ・教員用パソコンの管理と更新 ・有意義な教育実習の在り方の検討	・SPS推薦委員の指導・助言を受けつつ、SPSの7つの指標の達成を図る。 ・SPSサポータ委嘱制度を導入し、生徒が学校安全により積極的に取り組む方法を検討する。 ・文部科学省からの資料をもとに、「学校安全マニュアル」を見直し必要な改訂を行う。 ・学校安全の観点から本館3階の各教室の廊下側の破損している鍵の修繕を早急に行う必要がある。 ・ヒヤリハットシステムの運用方法を確立して、有効的な活用方法を検討する。 ・「さすまた」を、国際センターやメディアセンターなどに配置する。 ・「非常用医療品袋」の中の期限切れが近づいている医療品の更新を行う。 ・生徒用の上履きをかかと付きに変更する。 ・教室用の机とイスを早い時期に購入して、更新する。 ・教育実習の在り方について，大学および連携校との連携を密にする。	・SPSに関しては、パナソニック教育財団から「生徒とともに取り組む学校安全の共同エージェンシー　―ICTを用いて未然に校内の事故を予防するためのシステム構築の実現を目指して―」と題した研究課題が認められ、助成を受けた。それに関連して、7月と12月、3月に助成を受けた貴財団のHPにスクールフォトレポートとして活動記録を掲載し、SPSの活動を外部へ発信した。 ・SPSサポーター委嘱制度を導入し、SPSサポータ会議を定期的に開いた。防災訓練での教員と生徒の共同企画・実施・振り返りのほかヒヤリハットマップの検討を行った。 ・『安全マニュアル』の改訂を毎年行っているが、今年度は「海外研修に関する危機管理」の内容を追記した。 ・国際センターとメディアセンターの1階2階にそれぞれ1本ずつ計4本の「さすまた」を設置した。 ・「非常用医療品袋」の中の期限切れが近づいている医療品の更新を行った。 ・今年度から生徒用スリッパを、指先までしっかり覆われた形状でかかとがある上履きに変更した。 ・「安全点検」についてはQRコードによる入力を、今年度も全面実施した。 ・下足室と男子更衣室の階段の滑り止めが剥がれていた箇所を修繕した。 ・教育実習については大学の改編の影響で大きな変化が求められている。	4	・SPS認証校とはいえ、火災・地震・防犯訓練の前にSPSサポートメンバーによる事前学習を行なったが、不十分な面もあり解決すべき課題は多い。また、SPSサポートメンバー委嘱制度は継続しているが、生徒の動きはまだまだ自主的で活発とはいえない状況であり、生徒や教職員が学校安全に対する認識を、今まで以上に高めるような安全教育の開発に取り組み、より多くの生徒や教職員が本校をより安全な学校となるための活動を積極的に行うようにしていく必要がある。 ・『学校安全マニュアル』の改訂については、毎年内容を精査し更新している。 ・教室の机とイスに関しては、予算の関係上、交換したほうがよい状態のものがまだ複数残っている。さらに、今年度に関しては教員用パソコンを数台更新予定であるが、机・椅子の更新と同様に予算の関係で、まだ多くの教員に支給できていないのが現状である。

令和6年度　　学校自己評価

大阪教育大学附属高等学校池田校舎

区分	項目	現状	課題	達成目標・方略	進捗状況	到達度	今後の課題
校務分掌（委員会）	広報委員会	◇主な活動 ＜広報活動＞ 〇学校案内の作成と各中学校への案内送付 〇中学校訪問 〇塾訪問 〇学校HPの管理・更新 〇学校インスタグラムの管理・更新 〇いしばし商店街との交流事業 ＜説明会＞ 〇学校説明会・スクールガイダンス、体験授業 〇大阪府進学フェア 〇塾対象説明会 〇塾等での進学説明会 〇附属中学校（中1生・中2生対象）での学校説明会 ＜学校行事関係＞ 〇視聴覚行事	〇各種説明会で利用する説明内容及びスライドの精選 〇スクールガイダンスや大阪府進学フェアで配付するグッズ内容と発注数の再検討 （令和5年度＝うちわ・簡易バッグ製作） （令和6年度＝A4クリアファイル・簡易バッグ製作） 〇視聴覚行事鑑賞時 登下校マナーの改善	〇昨年度訪問することができなかった伊丹市や宝塚市の塾訪問を5月中頃までに11団体を訪問することができた。 〇7/19（金）～8/23（金）の期間、全教職員で91校の中学校へ訪問することができた。 〇附属中学校1年生・2年生を対象とした学校説明会を企画・実施することができた。 〇学校案内の内容を更新することができた。 〇いしばし商店街との交流事業を企画・実施することができた。 〇視聴覚行事では、良い芸術作品に触れ、舞台鑑賞マナーを学ぶことを確認する。 〇地域(保育園等)との関係作りの継続。	〇多様な形態での広報活動の結果、令和7年度入学者選抜出願数は以下となった。（ ）内は前年度 一般：66(72) 国際：7(5) 〇HPやインスタグラムを活用することで中学生に届く情報発信を心がけた。 (2025/02/03時点＝フォロワー数730人、投稿77件) (2024/02/03時点＝フォロワー数300人,投稿数40件) 〇旧HPの平均アクセス数は1日100人にも満たなかったが、今年度も定期的な更新を行うことで平均アクセス数1日200件程度をキープし続けた。 〇生徒会執行部と連携し、附高生と中学生とが交流する機会を設けることができた。	5	〇学校見学会→附高祭→大阪府進学フェア→学校説明会(スクール・ガイダンス)→各種進学説明会という流れを意識した広報活動を計画・継続する。 〇学校案内の内容をニーズに合わせ随時更新する。 〇広報内容及び活動を更新する。
	国際教育委員会	1. 海外連携校との学びの交流 12名の生徒が4泊5日で韓国サンダン高校に訪問、またリトアニア・ジャミナ高校の生徒8名と教員2名が来校して5泊6日の日程で学びの交流を実施した。 2. 国際枠入試入学者の交流会実施 3. 海外交流参加者の学びの共有(マルカル通信の発行) 4. 大阪教育大学留学生との交流会計画・実施(ランチタイムチャット) 3. 国際交流活動の案内・集約(トビタテ!留学JAPAN等)	1. 海外渡航費などの高騰に伴うカナダ研修の中止 2. 海外校及び国内のASPnet校との学び合い参加者による学びの成果の、全校生徒への還元 3. 国内外の生徒との学びの機会の更なる設定	1. リトアニア・ジャミナ高校との学びの交流の定例化 2. コロナ禍で一次途絶えた海外連携校との相互訪問による交流の考え方やプログラムの継承 3. 大阪、関西ASPnet活動への積極的な関わり	1. 11月に行われたリトアニア・ジャミナ高校との学びの交流は成果の多い内容となった。交流の枠組みづくりに着手した。 2. サンダン高校との交流において、お互いのコーディネーター経験者と、現在のコーディネーターとの間で、知見の継承をすることができた。 3. 大阪、関西ASPnet活動を本校教員が主体的に主導し、「能登震災支援を考えて支え合うことを学ぶ」をテーマに、小中高生18校99名、大学生7名、教員20名の参加のもと、延べ6日間の学び合いを実施した。	5	1. カナダ研修の中止に代わる海外多文化・語学研修の検討 2. 海外校及び国内のASPnet校との学びの交流の活発化 3. 学び合いができる海外連携校の新たな開発
	情報化推進委員会	校内のICT活用全般を担当 ・校内の情報機器やアカウント等の管理および整備 ・CAV(PCルーム)の管理 ・新入生向けChromebookの選定 ・図書館に関する業務 ・デジタル採点運用のサポート ・生成AI活用の周知活動	・データがまとまりなく保存されている。 ・図書館利用者が少ない。 ・附属中学と附属高校の連携が不足しているため、異なるアプリやアカウントを利用することがある。	・学校全体の情報化の推進 ・情報メディア活用力の育成 ・校内の情報機器、アカウントの管理の徹底 ・生成AIを利用した校務の軽減	・デジタル採点の利用が前年よりも広がった。 ・CAVや無線画面転送装置の不具合が前年より改善された。 ・Googleアプリの利用が日常的になった。 ・生成AIの活用に関する研修を実施した。	4	・附属中学と附属高校のアカウント統一化が、当初の想定どおりには進まなかった。 ・生成AIは校務の削減に大いに貢献するツールであるため、次年度以降は利用者を増やすべきである。 ・校内の情報機器取扱マニュアルを、時代に合わせて更新していく必要がある。
	高大接続委員会	【主な活動】 ＜大学との連携＞ ▸京都大学見学会 ▸大阪大学講演会 ▸研究室訪問（大阪大学・同志社大学） ＜進路関係＞ ▸卒業生による大学・学部説明会 ▸大阪教育大学「教師にまっすぐ」への参加 ＜探究関係＞ ▸ELCAS・SEEDS・ROOTへの参加 ▸京都大学ポスターセッション	高大連携事業や探究プログラム等を取りまとめる部署がなかったため，今年度新たに「高大接続委員会」を発足させた。そのため，前年度から引き継いだ課題はない。 「生徒に広い世界を見させる」ということをテーマに，高大連携のイベントを実施すること，探究プログラムへの積極的参加を促すことを中心に進めていく。ただし，そのためには教務部や研究部との連携，さらには同窓会などとも連携していく必要がある。	▸高大連携事業として，研究室訪問や大学見学会などを新規開拓する。 ▸探究プログラムへの応募者・合格者を増加させる。 ▸卒業生(現役大学生)と連携をとり，大学見学の補助や生徒の進路選択に向けてアドバイス等をしてもらう。	▸昨年度実施した3回の大学の研究室訪問に加えて，今年度新たに「大阪大学QIQB見学会(40名)」「大阪大学講演会(309名)」「京都大学見学会(50名)」を実施できた。 ▸ELCAS，SEEDS，ROOT，i-GRIPへの応募者数17名，合格者は計8名。 ▸卒業生による大学・学部説明会では11名，QIQB見学会で3名，大阪大学講演会で2名，京都大学見学会で7名の卒業生に協力してもらった。	5	▸講演会や研究室訪問などの数を増やしていくには，同窓会とも連携を強化し，卒業生の近況を把握しておく必要がある。 ▸探究プログラムへの参加者を増やすと同時に，合格者も増やしていきたい。 ▸卒業生との連絡手段として，今年度はメールを利用したが，大学生はあまりメールを利用していないのか，やり取りに時間がかかってしまうため，別の手段を考える必要がある。